

可部カラスの会

第11号 98. 12. 15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3
TEL(Fax)814-0162(寺本)
kabemati@yellow.plala.or.jp (田中)

創意を活かして準備進む

マンホールのセレモニー

よがんす祭りで新可部中央商店街振興組合といっしょに選んだマンホールのデザイン、いよいよ全国初のみんなで選んだマンホールの蓋となって皆さんへお披露目の日が近づいてきました。

セレモニーの案内は、既に町内会を通して回覧版で廻っており、広島総合銀行に依頼した窓口でのチラシ配布もたちまちなくなって、追加した(つるかめ屋さ

ん談)ほどの人気のようです。

セレモニーは12月26日(土)12:00から広島総合銀行可部支店駐車場でいきます。

総合司会は金物屋の西本さん。佐々木会長の挨拶に続き、だしものの最初は言わずと知れた「カラスの名物」寸劇。ここではマンホールをデザインした加藤修さん、倫さんも出演、太鼓の演奏も予定しています。

ここからマンホールの除幕。商店街、来場者、カラスの三者で除幕です。そして文教女子高校の皆さんが「祝い太鼓」を演奏して除幕式は終了。

アトラクションは「ジャンケン大会」。司会はメンバー

の野路さんが担当、どなたでも参加できて、勝数の多い人には賞品も予定しています。

以上がセレモニーの概要です。後は好天気で大勢の人が参加くださるよう祈るのみ。 雨よ降るな!!



お宝くん探しに朗報 当面可部小資料室へ

54号線バイパス工事に伴って移転の対象となっている山口さん(山口食料品店経営)から、「農機具倉庫にある古い農機具を見に来ないか。」との連絡があり、早速訪問して機具を見せていただきました。

そこで問題は保管場所。可部小に古い道具を保管した教室があるらしいとの情報をキャッチした代表が可部小と折衝を試みることとなりました。安佐北区役所まちづくり推進担当の口利きもあって話はスムーズに運び、小学校を訪問。資料室を見せてもらい、片岡校長先生とも面接し、「カラスの会」の考え方と廃棄するに忍びない資料の保存場所として現行の資料室を貸してほしい旨を申し入れました。

学校としても「児童の教育に役立つものであれば使ってもらって結構です。少子化が進めば利用しない教室も増えるので、資料室の拡大も考えたい。」と協力的な返事をいただきました。

カラスは「資料の整備(道具の使い方とその背景などの説明)に協力したい」旨を申し入れ、お互いに了解したところ です。

これで「お宝くん安住の場所」に一応の目途がつかしました。カラスの活動を好意的な眼でみてくれる暖かさが感じられます。

メールアドレスが変わります
今回の会報からメールアドレス
がmomijiからkabemati
atiに変更となります。
今少ししたら接続できる予定
です。ヨロシク

ただいま

活動記録作成中

いま、みんなで手分けをして「カラスの会」生い立ちから(H9年3月~H10年12月)の活動を報告書としてまとめています。そしてひとつひとつの記録を集大成して冊子にしようと大それた行動を起こしているんです。



私たちの活動は、全員がそろって行動できることはありません。ましてや運動自体継続性のあるものですから、どうしても活動のたびに記録を残しておく必要があります。



現在のところ約30件程度の活動(イベント)をまとめているところですが、漏れているものがあるかもしれません。みんなでチェックしてみたいのです。そしてこの冊子がメシのタネになるかも知れないのです。



来られイ

おきや〜ま〜

実は「まちづくり全国大会」が岡山市で開かれるんです。そして「カラスの会」もそれに出ることになったんです。

第8回まちづくり会議全国大会 名づけて『全国まちづくり屋台村 in OKAYAMA』

平成11年1月29日(金) 13:33~17:00 1月30日(土) 9:00~12:00
アークホテル岡山(岡山市 下石井)

屋台は、それぞれのブースに別れて店を飾り、自前の情報を売り込むわけですが、これはあくまでもゲーム形式で行われます。そして人気度の高いものには賞金がでるという仕組みです。

さらに自分たちの作成した情報は、ゲームとは別に自由に引き取り可能なのです。わたしたちの「まちづくりの情報」が全国に散らばって行く夢をみようじゃありませんか。

今からのスケジュール

12月26日(土)	12:00~	マンホールセレモニー
1月13日(水)	19:00~	定例会
1月20日(水)	19:00~	定例会 全国大会対策で繰り上げ実施です
1月29日(金)	12:00~	全国まちづくり屋台村
1月30日(土)	~12:00	同

可部カラスの会

第12号 99. 1. 15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3

TEL(Fax)814-0162(寺本)

kabemati@yellow.plala.or.jp (田中)

空にこだまする太鼓の響き マンホールの セレモニー

平成10年12月26日12時、マンホールのセレモニーは始まりました。総合司会西本さんが元気のよい声で開幕を告げました。可部新中央商店街振興組合、佐々木会長の挨拶に続いてカラスの「寸劇」は、この日の主役加藤修さんを紹介する仕組みでした。



太鼓を抱えた修さんと倫さんがステージに登場。華やかにドラムショーの幕開けです。会場に集まったお客さんも最初のうちは戸惑いながらも、興が乗るに連れて手拍子を打つ人も…。ここで修さん、太鼓を叩きながら会場を一回り、会場の人たちも目の前で演奏に手拍子も次第に大きくなり、一周したときにはお祭りの雰囲気はぐーんと盛り上がり

ました。次いでセレモニーはマンホールの除幕です。幕のテープは商店街振興組合から佐々木会長、参加者の中から大林の山田さん、カラスの三木さんの三人が引きます。

除幕が終って新しいマンホールが皆さんの前にお目見えしました。そしてセレモニーのしんがりを受け替えてくれたのは文教高校「和太鼓部『文教太鼓』」のメンバー総勢9名。「祝い太鼓」は色鮮やかなハッピに身を包み、一糸乱れぬバチさばきでセレモニーに花を添えてくれました。

お開きの挨拶に立った商店街振興組合仁井さん、「こんな立派なマンホールを可部に残してくれた修さんありがとう。」の声に会場は大きな拍手に包まれ、最後に全員「一本絞め」でセレモニーを終了しました。

除幕の代表に選ばれた大林の山田さん「親戚のものがマンホールに関わっているのに来てみしたが、まさか代表に選ばれるなんて……、でもよかったです。」と、感想を述べてくださいました。



マンホール取替え作業終了

セレモニーに先立ち、54号線上市～中央までのマンホールが取り替えられました。9時から開始された作業は交通ラッシュの中で古い蓋と交換するもの、わずかに40分余りで取替え終了となりました。



「今まで意識せずに歩いとったのに、気をつけてみるとええじゃないネ。」というのが町の人の意見でした。

勝った負けたで大賑わい

セレモニーが終って今度はジャンケン大会。ルールは簡単、負けたら勝者の顔にシールを貼りたいたくさん貼られた順に入賞をきめるもの。



子供も大人もお年寄りも全員があちらこちらで「ジャンケンホイ」の大声が飛び交い、すばらしいイベントの締めくくりでした。

着着進む屋台村の準備

何でもやってしまうんです。カラスのメンバーは、前号でお知らせしたように「全国まちづくり屋台村 in OKAYAMA」に出展するカラスの屋台が出来上がりました。

屋根瓦と卵建、暖簾を配した屋台に加えて、絵葉書販売用スタンド、可部探索マップは絵屏風になったんです。屋台は組み立て方式となっており、車で移動OKです。



1月9日、雪の中を友鉄

へやってきたメンバーの叡智？を結集した構想は、近所の屋根瓦を目にするに及んで「おい、瓦屋根を作ろう。」当初紙を貼って屋根を作る予定が急遽変更となっても、目を輝かせて作業に取り組むメンバーの労作は、徐々にその全容を形作って行きました。



友鉄社員のご意見は「こりゃあええわい、酒でも飲みとうなる雰囲気じゃが、屋寝の勾配が足らんのかやない？」早速もっと勾配をつけることに決定。でももう5時を廻り薄ら寒くなったので翌日回しに……。翌日、勾配をつけてスプレーも塗って、屏風も完成。新築屋台の前で記念撮影もすませ、午後4時終了。

だしものは寸劇 売るもの いろいろ



カラスの作業ごあんない



1	明神公園公衆トイレに絵タイル	1
2	広島北街道とおりにゃんせフェア '97	5
3	戸内河水質浄化作戦に参加	13
5	文芸女子大学祭で「可部の町」紹介	21
4	カラスの会にパソコン購入	17
6	第一回根の谷川クリーンキャンペーン	25
7	まちづくりシンポジウムに参加	27
8	三段峡ハイマリア作戦に参加	31
9	まちづくりボランティア大会参加	33
10	根の谷川水質調査と芋煮会	37
11	岡山県高梁市、美星町の視察	41
12	まちづくりワークショップ劇に出演	53
13	水援隊報告会	57
14	高松山の案内板、ライオンズクラブが設置	61
15	9.5'、映画フィルムを発見	65
16	なつかしい可部の町写真展	69
17	広島発見講座の講師に	76
18	文芸女子大合同発表会で写真展	78
19	水援隊学習会に参加	80
20	カラスの会東京支部誕生	82
21	可部町内の銀行で写真展	84
22	よがい才祭で写真展とつね々人気投票	88
23	第二回根の谷川クリーンキャンペーン	90
24	可部の町マンホールデザイン決定	94
25	環境講演会で発表	98
26	第二回根の谷川水質調査と芋煮会	102

大会のスケジュールは29日午後が「まちづくり屋台村」で、ここではグループの持っている情報を売買するゲームで、「屋台村の通貨 ピオーネ」でほしい屋台の情報を買う仕組みです。

そして売上高の多かったチームが表彰の対象となります。

加えてチームが所有する、まちづくりに関する書籍は現金による商売もOKなんです。そこでカラスが発足以来の活動をまとめた冊子、活動絵葉書、会報を売って生活費を稼ごうという話がまとまりました。

活動の記録は左の目次のように、明神公園絵タイル貼り～去年の暮れ行った根の谷川水質調査と芋煮会の26項目にまとめました。

さらに屋台村と並行して「まちづくり劇場」が開催されますが、ここではカラスのオハコ、寸劇を主体にビデオとスライドを活用して15分を目一杯使って「カラスの誕生と写真展」を広島弁たっぷりでご披露する予定です。

「井の中のカラス」の殻を破る絶好のチャンスなので、全国の皆さんと情報交換をできたいと張り切っています。

可部カラスの会

第13号 99. 2. 15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3

TEL(Fax)814-0162(寺本)

ma80675d@ma8.seikyoku.ne.jp (田中)

目を見張らせたカラス

岡山で屋台店を開いたカラスのメンバーにとっては、ものすごく忙しくて充実した2日間で、大変勉強になりました。

第8回まちづくり全国大会が1月29日～30日岡山市で開催されました。これは全国で、日夜まちづくりに活躍している市民と建築士会の団体が一堂に会して、それぞれが作り上げた情報を模擬紙幣で売



買(交換)し合うという企画です。

カラスのメンバーは、この大会に屋台を作り、情報として「カラスの仕業(活動報告書)、絵葉書、会報」の3点、寸劇と地酒を提げて臨みました。

屋台村の開始と同時に店は大繁盛。加えて2時から行われた寸劇でも広島弁が好評とあって、カラスの屋台の前は常時人が集まって来る状況でした。ちなみに「カラスの会」に感想を寄せられた件数14件。その内容を紹介しますと、

「手作りの熱意が伺える」、「本物の広島弁の寸劇と、可部の水を使ったお酒には参りました」

「さすが金賞。住民の結束が感じられます」、「マンホールのデザインがおもしろい」

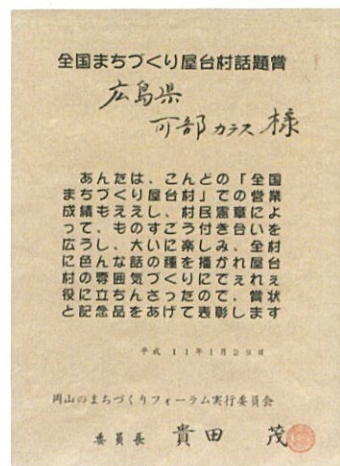
「劇場もお酒もよかった」、「手作りの屋台がすばらしい。がんばってください」

「寸劇が素晴らしかった。人間がそこに居るといふすごさが感動的であった」 以下略

というものでした。

そして懇親会の席で成績が発表されましたが、模擬紙幣の売り上げは11位(31店舗中)、そのうえ屋台村を賑わせた力を買われ、金賞「話題賞」をいただきました。

さらに、翌日の「地域に役立つまちづくり」をテーマにしたワークショップでも上位にランクされ(6位)、寺本事務局長がカラスの会と地域との相関図をもとに説明し、最後に三木さんが「私たちの活動を長く続けるためには、まず楽しくやるをモットーに、どこからも資金援助を受けず、資金不足は“飲み会”でカバーするんです。」と結び、会場の笑いと共感を得ました。このことは大会構成メンバーのほとんどを占める建築士会の人たちに、“今からの町作りは住民のパワーと協力が不可欠”という点で小さな一石を投じたのではないかと感じています。



岡山のみちづくりフォーラム実行委員会

委員長 貴田 茂



ご寄付ありがとう

友近 純子さんから切手
三ヶ本 妙子さんから現金

の寄贈をいただきました。
ありがとうございました。

励ましの手紙を紹介します

広島市長 活動報告書「カラスの仕業」送付に対する謝意とともに「今後ともカラスの活動を期待します」と激励の葉書をいただきました。

80代の男性 中国新聞の活動報告を見て、小学校時代にカラスの優しさを目の当たりにした体験から、可部カラスががんばれとの手紙をいただきました。

古い可部をもっと知りたい

亀山南小の社会学習に参加 (6年生)

「昔の可部はどんな産業が盛んだったの？」の疑問に新澤先生は写真、VTRを使いながら子供たちに語りかけました。

鑄物産業によって繁栄したこと

太田川を利用した運輸、交通が発達したこと

山陰地方との接点であり、県北の荷物の集散地であったこと
これに対して生徒から「最初のバスについて」、「昔の農機具の使い方」などについて質問が集中し、私たちが宿題を課せられる羽目にいたしました。

そして、私たちの話を作文に、絵にまとめるので、さらにそれを中心に学習を続ける予定です。

また3年生からも学習の要請があり、昔の人の生活を主体として「生活の変遷」を話す予定です。

井手本さんに写真贈呈

秋の叙勲をたたえて

カラスのメンバー井手本さんは、すでにご
昨年の秋“勲五等双光旭日賞”叙勲の栄に
年末の反省会で参加者全員の記念写真を
たび代表を始め、屋台村のメンバーが井手
問し、記念写真を贈呈しました。

井手本さんは大変喜ばれ、「歴史はすべ
始まって、月日が経過して振り返ってみた
識するのです。“すべての今”を大切に」とおっしゃいました。



承知のとおり、
浴されました。
撮影し、この
本さん宅を訪

て“今”から
とき歴史と認

まちづくりの仲間と

遊びませんか

可部の近辺で「まちづくり」に
努力している仲間との交流をする
予定です。

- 1 わが街 自慢士隊(青崎)
3/6 訪問体験報告
3/13 可部の町並み案内
- 2 屋根裏(佐伯区)
交流日時 未定
まちづくり全国大会に出場したグループで、会場で交流を約したものです。
- 3 大塚あべまき会(大朝町大塚)
中国新聞に活動記事が掲載。
連絡を取ると「ぜひ交流を」との返事がありました

これからの予定

定例会 2月24日

3月10日 3月24日

亀山南小 2月23日 3年生の社会学習

水援隊 2月28日 安佐南区民会館

交流会 わが街自慢士隊(青崎公民館主催)

3月6日 青崎公民館を訪問
カラスの体験報告

3月13日 座談会と町並み探検

時期が特定しないもの

郷土資料館開設に向けて(古いものの保存
活動)

藤井さんの映写会 暖かくなつてから実
施の予定

交流会 屋根裏(佐伯区)
大塚あべまき会(大朝町大塚)

可部カラスの会

第14号 99. 3. 15

昔のことがわかったよ

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3
TEL(Fax)814-0162(寺本)
kabekarasu@ma8.seikyuu.ne.jp (田中)

亀山南小からお礼の手紙

前号でもお知らせしましたが、亀山南小学校6年生の（5年生と記載したのは誤りです）出前授業に続いて、3年生の社会科「くらしのうつりかわり」にもカラスが飛んで行きました。

写真で見る昔の人の生活は、子供たちに相当のインパクトを与えた様子で、バス、橋、船、風呂、家畜などどれもアンビリーバブルの感想でした。中には「昔の人は協力して生活していた」事を実感した子もいました。ここで子供たちの感想文を紹介します。

日本で初のバスにびっくり

6年生 上田 千晶 さん

今日、カラスの会の人達に可部の移り変わりを教えてもらいました。

むかしの乗り物は、乗り合いバスや軽便列車や船を使っていたそうでした。その中でももっともびっくりしたのは、乗り合いバスです。横川から可部間を走った日本で最初のバスだったからです。

そして、他にも団地の移り変わりや可部駅の移り変わりです。場所は、今とほぼおなじみなのですが、周りの建物がじょじょに変わっているのが、ビデオや写真で分かりました。またきかいがあったら来るそうなので、じっくり聞いてみたいです。

年表に書けます

3年生 しも田 まい さん

カラスの会のみなさん。昨日はどうもありがとうございました。

おかげで、いろんな、なぞがとけました。

わたしたちがつくった、ねんぴょうにもいろいろかけます。

ほんとうにありがとうございました。むかしはおふろのおゆは、子どもがぐんでいたとか、けっこんしきはいえでやっていたとか。とてもふしぎでした。

こんな資料館ほし〜イ

3月2日、民族資料を大切に保存している、尾道市山波^{ナバ}小学校を訪問し、校長先生から設置された経緯をお伺いするとともに、資料館をみせていただきました。



尾道市市制100周年記念協賛事業として、行政から支給された40万円の使徒について地域の人達と協議した結果、一過性のものではなく「地域に根づいた伝統行事を後世に残そう」と衆議一決。地域の人達から寄付を募って400万円の浄財で作り上げたんだそうです。

「学校は場所を提供しただけ。あとは地域の皆さんの手作り。」と言われるように、地元の皆さんが全力で作上げた資料が、第一室は『山波の歴史と神明祭り』で農作業などが主体に、第二室は『暮らしと祭り』で子どもの遊びや神楽が、きれいに整理され、

並んでいました。これを参考に可部にも資料館作りを推進したいですね。

にぎやかに各地と交流

青崎公民館『わが街自慢士隊』

南区青崎公民館で活動が続いている「わが街自慢士隊」からカラスの会の活動をくわしく知りたい。という要望がありました。早速3月6日メンバーが青崎公民館を訪問しました。

この日はカラスの会が発足した経緯から独立して活動を開始するに至る経緯を中心に寺本さん、三木さんが説明しました。



寺本さんが説明。昼食を済ませていよいよ町の案内となりました。

皮切りの「旭鳳酒造」では滅多に見られない麹室などを案内してもらい、いつもは口にできない酒まで試飲させてもらったりで大賑わい。願船坊～折目と続いて醤油醸造の中川さんでも土産ものをいたたきました。

最後は明神さんと公園の鉄灯籠カドコロフに絵タイルのトイレを見てコース終了。可部駅でお互いの今後の健闘を約してエールの交換をして別れました。

東京農業大学〔東京支部〕

3月6日、青崎公民館からトンボ返りで友鉄ランドへ。ここには東京支部の溝口さん他東京農業大学8名の皆さんが待っていました。

「可部カラスの会」の活動に関心を持ったメンバーがたずねてくれたんです。

早速自己紹介を兼ねて「可部のまちに対する思い入れ」を語った後町探検へ



と繰り出しましたが、新しいマンホールのデザインを食い入るように見つめる皆さんの姿が印象的でした。

旭鳳酒造さんでは予告なしの訪問にもかかわらず、試飲もさせていただき感謝、感謝。

旧道は車両の多さに、説明もしばしば中断を余儀なくされるほどでしたが、どうにか予定のコースを終了しました。

映写会をやりましょう

大文字祭りにあわせて

大正後期に撮影された、可部の町のフィルムを見ましょう。

これは既にご承知のとおり、去年の大文字祭りに合わせて行なった「なつかしい可部の町並みや暮らしの写真展」の写真募集キャンペーン中、三丁目藤井一臣さん宅の蔵から見つかった貴重なフィルムです。

この再生方法を新澤さんがNHKに相談したところ、貴重な映像だということから、NHKの手によってビデオに再生されたもの。そして「ふれあいチャンネル」のご厚意もあって、さらに見やすくされました。

映写の予定日は勿論、**大文字祭り**（5月29～30日）場所は折目の可部学区集会所（予定）です。そして撮影当時をご存知のお年寄りの感想などを交えながら楽しい映写会にしたいと考えています。さらに昨年展示されなかった、いくつかの写真を飾る予定です。

カラスの活動 西区でも発表

カラスの会の活動を西区でも発表します。
3月24日（水）14：00～
西区横川新町 西区民文化センター
寸劇とパネルディスカッション

カラスのジャンパー新発売

カラスのジャンパーができました。
冬物の特価販売にあらず。
20着の限定販売で～す
夏はTシャツ、冬はジャンパーで決めましょう

可部カラスの会

第15号 99. 4. 15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3
Tel(Fax)814-0162(寺本)
kabekarasu@ma8.seikyuu.ne.jp(田中)
<http://ha8.seikyuu.ne.jp/home/kabekarasu/>

カラスの活動を西区で披露

寸劇とパネルディスカッションで

「可部カラスの会」って何だろう。どうしてこんな変?な名前のグループが元気よくとびまわっているんだろう。こんな質問に答えて、「カラスの飛び方」を西区の皆さんに見ていただきました。

2月24日、場所は西区民文化センター。先発隊は既に設置してあった屋台の整備と写真の展示から作業開始です。会場内では裏方さんが照明のテストに余念がありません。



第二陣の到着を待って準備も着着と進み、腹ごしらえも済ませて本番待ちです。

やがて13時半を過ぎると参加される皆さんの姿が見えてきます。安佐町出身という婦人が写真を熱心にみていらっしゃいます。「やっぱり懐かしいねエ、ええ写真を集めちゃったねエ。」



交流会が始まる前から雰囲気は盛り上がってきました。

このコミュニケーション交流会は、西区役所まちづくり推進課の渡辺さんが言われるように、今までの「講座方式」から「実務を学び取る」方式に変更してみたんだそうです。

活動を続けるコツを寸劇で

いよいよ本番開始。まずはカラスの得意な寸劇から。タイトルは「カラスの誕生と西区へ進出のいきさつ」です。

寸劇は素晴らしい環境の中で、素晴らしい出来栄でした。小ホールは約150名分の椅子、ステージは裏方さんの努力もあって発言者にスポットが当てられる仕組みで完璧です。これで役者も調子が出ないわけがなく、アドリブも至る所で飛び出すなど、会場は終始笑いの渦に包まれました。そしてその中で私たちが訴えたかったのは、活動を長く続けるコツ。それは

- ・ できることをできる人がやろう。
- ・ 義務でやるんじゃない、やったほうがええ。
- ・ 細う、長う続けよう
- ・ 楽しんでやろう
- ・ 反対する人があったらやらん です。

西区のみなさんにも理解していただけたら、カラスが西区に飛んできた甲斐があったといえましょう。

悩みやら楽しさやら

初の試み・パネルディスカッション



続いてはちょっと趣向を変えて「パネルディスカッション」です。ここでは問題を4点に絞りました。それは

1. どんな人との

出会いがあったか。

2. 活動するための施設等は確保されているか。
3. 活動を支える財源はどうしているか。
4. どんな活動をしているか。 です。

これらの問題を項目別にコーディネーターがパネラーを指定して報告しましたが、カネとモノには悩みを抱えている現状をそのまま報告。

質問項目からはみ出した回答も多少は何えましたが、総括的には参加者の理解を得られたように感じています。

可部線を廃止しないでえ

この気持ち伝えたい



参加した会員が思いを語る

カラスは可部線存続ウオークにも参加しました。

ご存知のとおり、JR西日本では可部線の可部～三段峡間の路線廃止を計画していますが、これを残してほ
しいと沿線の人達が結集して1
この実行委員会に参画してい
の会」にも協力の要請があり、
の区間でウオークに参加しまし
ここでは可部線に対する思い

新澤 孝重さん

わたしは安芸亀山駅付近から
可部まで歩きました。いろいろ
な方と意見を交換しながら感じ
たことは、自分はやはり傍観者
の側にいたんだなということです。

自分では何か物品を購入しよ
うとするとき、それがあれば便
利だが、なくても我慢が出来る
ものは買わないようにしてい
ますが、可部線の存続問題は同
じ思考形態ではいけないと思
いました。

対岸の人達が手を振りながら
何度も何度もお辞儀して行進
の人達を応援されている姿に感
動を覚えました。

どのような結果になるかまだ
分かりませんが、この思いとエ
ネルギーが地域づくりまちづく
りに反映されなくてははいけな
いと思いました。



友広 大造さん

テレビの番組で列車の車窓から
景色を眺めるという企画があり
ます。この情景はいつも感動を
与えてくれますが、可部線にも
あの情景に匹敵するものがある
と思うんです。この気持ちは
わたしだけではないと思います。

50年後に「しまった。残してお
いたほうがよかった。」という
悔いを残さないためにも、今
じっくりとみんなで考えて結
論を出してほしいと思います。

000人ウオークを実施しまし
た。可部町商工会から「可部カ
ラス趣旨に全面的に賛成の有
志が任意」を
手記としてまとめてみました。

三木 啓子さん

私は可部線が好きです。先日
も田之尻から坪野まで歩いて
みました。菫、礎草など美しい
花々に感動しました。そして
唯一残っている渡し舟はあ
いにく陸揚げされていま
したが、鉄橋の補助歩道
を手摺伝いに歩いたの
も感動でした。

可部線の廃止を聞き、この
度は名もない所を歩いて
みましたが、太田川沿
いの道々は感動の沿
線でした。やはり広島
を代表する太田川は
広島県人の誇りです。
この先10年後20年
後には確実にクロー
ズアップされる沿
線です。広島からの
可部線全線を10
円～20円ずつ値
上げしてでも存続
しておいて下さい。

壊すのは簡単です。今
もう一踏ん張り存
続に希望を持つよ
う願っています。

藤井さんの映像紹介します

家族が楽しそうに「すし徳」で西洋料理に舌鼓……。大正15年撮影の
映像をアナウンサーが「市内を写した最も古い映像と思われます。」と説
明し、画面は当時の猿楽町から原爆ドームの前身「広島県物産陳列館」を
紹介します。これが可部3丁目藤井さんの撮影された映写フィルムの一部
です。(NHK・映像の20世紀 3. 19から)

そのほか可部の本通り・高松橋・雪景色・運動会等々さまざまな映像を
見ることができます。

平成11年5月29～30日、可部学区集会所で映写会を行ないます。
イベント運営の手伝いも含めてみんな来てネ。

去年と同様の活動予定

今年の活動予定は、昨年と
同様な内容で実施します。
主なものはつぎのとおり

映写会	5/29～30
文教女子大発表会	6/27
根の谷川クリークキャン ペーン	未定
水質調査・芋煮会	11/14

可部カラスの会

第16号 99. 5. 15

ただ今映写会準備中

昨年同様 大文字祭りに

今年も高松山の大大文字祭りに併せてイベントを行ないます。

昨年の「なつかしい可部の町」写真展は多くの人々から賞賛の言葉をいただきましたが、今回は映写会をやることにしました。

昨年募集した写真の中に可部三丁目藤井一臣さんの蔵から、父親の重一さんが大正の終わりから昭和初期にかけて撮影された可部の町並みや可部周辺のフィルムが発見されたのです。

フィルムは私たちの手では複写することができないため、NHKに相談した所こころよく複写に応じて貰えました。そして一部は昨年の写真展でも紹介し、可部の皆さんにもできるだけ早く見てもらう予定でしたが、藤井さんの体調を考慮して伸び伸びになっていたものです。

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3
Tel(Fax)814-0162(寺本)
kabekarasu@ma8.seikyoku.ne.jp(田中)
<http://ha8.seikyoku.ne.jp/home/kabekarasu/>



屋台が出迎え

撮影場所を地図にプロット

フィルムはカラスのメンバー、新澤さんの手によって見やすく編集されています。そして映像の一部をスチール写真にして掲示し、参加された皆さんの意見をいただくと共に、撮影場所がわかったものは地図の上にプロットして行く予定です。

そして映像の撮影当時をご存知の方へ出席いただいて感想、エピソードなどを聞かせてもらって、更に充実した内容にしたいと考えています。

会場の雰囲気作りに「屋台」を出し、ほんのちょっぴりお酒やお茶も提供する予定です。既に会場案内の看板は凝り性の皆さんが一日かけて作成しました。準備はまだありますが、面白いものになりそうです。

八丁堀界限でカラスが話題に

以下は事務局長、寺本さんからのメールです。

飲み屋での出来事です。衝立で仕切られてテーブルが並んでいるお店での話です。いつものように機嫌良く飲んでおりましたら衝立ての向こうで、隣のグループから『可部カラス』という言葉が聞こえました。

あれーエ……と思って覗いてみましたが、知らない人ばかり、そうこうしていたらそのうちのお一人が『可部カラス』のネーミングから説明を始められました。こりゃまたビックリ。

そして誉めること誉めること、つまるところ地域づくりはこういった市民グループが不可欠であると、他の皆さんに説明をされていらっしやいました。

ひとつおり説明を盗み聞きし、さっそくご挨拶に参上、向こうのグループもビックリされていました。

財団法人日本公衆電話会 中国本部長 永井米勝さんという方でした。『可部カラス』も八丁堀界限で議論していただけるようになったという、大変うれしいできごとでした。

可部周辺の資料ぞくぞく

このところカラスに可部周辺の資料が寄せられています。

一つ目は、可部南で船大工をしておられる川口さんの仕事を記録したビデオ。

二つ目は幸田光温さんが作成された新聞と冊子の一部（抜粋）です。いずれも所有者のご厚意により皆さんにご披露できることになりましたのでその内容を紹介します。

筆者とカラスの出会い

三木さん

カラスの三木さん、先日広島県立美術館を訪れて、展示してある古い記事を扱った新聞に気がつきました。よくよく見るとタイトルは「太田川新聞」とあり、内容は19世紀から20世紀にかけて太田川流域で発生した事件を扱っています。

メモ用紙がないので入場券の裏側に鉛筆でメモしていると、係員から「新聞を作られたのはこの人です。」と紹介されてビックリ。三木さんが心酔している画家だったこともあって話はとんとん拍子に進み、資料を送ってもらうことになったわけです。

記事の中身は1810年献上品として太田川の鮎を独占支配しようとする廣島藩に抵抗する住民の姿、あるいは可部紬と呼ばれた「山まゆ織」の事件など太田川流域で発生した事件を克明に記録してあります。その他、鮭の遡上が減ったこと、可部線（軽便鉄道）の開通、などなど、面白い記事満載です。

カラスの定例会

5月26日

6月9日 6月23日

イベント

- ・なつかしい可部の映写会
5月29日（土）13:00～21:00
5月30日（日）9:00～15:00
- ・かめやま老齢大学出演
6月27日（木）13:30～15:30
- ・文教女子大発表会
6月27日（日）

5
〜
6
月の
予定

テレビで感激、すぐ電話

新澤さん

昨年のこと。テレビを見ていた新澤さんの目がテレビに釘付けとなりました。

船大工川口さんの記録が放映されていたんです。

早速川口さんに電話して、「何とかしてもっと可部の皆さんに見せてあげたい」と話したところ「ビデオオ送付されればOKです。」ということになった模様。

そしてこのたびビデオをお借りできたわけで、この度映写会の案内看板作成当日にビデオを見るチャンスを得ました。

父親に厳しくしごかれた成長過程の述懐、水量の減少と釣り具の進歩により船の注文が減ったこと、淡々と語られる川口さんの風貌に風格が感じられました。

そして「いつ、どんな注文があっても作りますで。」という川口さんの頭の中には図面がギッシリ詰まっていることでしょう。

このビデオもおりを見て皆さんの前に披露される予定です。

カラスの紹介（1）

氏名 ヒノムラ タカシ
樋野村 孝さん
生年月日 1933.7.7
商売は親父の創業（1918年）の紺屋（染物屋）で二代目。呉服、京染めを手がける。現在は三代目の息子が店を切り盛り奮闘中。
趣味はJAZZを聞く、ゴルフ、写真。中でも今は写真にのめり込み、週3日は暗室の中。
中央のコンテストに応募のかたわら街の移り変わりや風俗の移り変わりの記録を続ける。
これが生きがい。

可部カラスの会

第17号 99. 6. 15

藤井さんありがとう 大正時代の可部のフィルム

今年カラスのメインイベント「大正時代の可部周辺の映写会」を高松山の太文字祭にあわせて5月29～30日の両日、折目の可部学区集会所で開催しました。町内会を通してのPRと中国新聞の報道を見て、2日間で500人以上の入場者があり、会場は終日賑わいました。

よう残ったねエ

映像に驚きと賞賛と

「それにしても、よう残ったもんじゃねえ。」「あんたらあ素晴らしいことをやってくれたのお、藤井さんに感謝せにやあいけんで。」

映写会開始早々から感動が伝わります。大正時代の可部の風景に接した人達の驚きの声です。

昨年春、蔵の中から出てきたフィルムをNHKの好意とカラスのエネルギーで可部の皆さんにお届けすることができたんです。ビデオの再編集は新澤さん（徹夜の連続）、解説は可部生え抜きの樋野村さん。看板作成は加納さんなどなど……。

会場入り口には野の花をアレンジした籠が、会場内ではカラス自慢の屋台が地元のお酒で歓迎。雰囲気は回を重ねる毎に盛り上がりを見せて来ました。

人気の引き金役を担ってくれたのがマスコミ、29日～30日とカラスの活動ぶりを記事にしてくれた「中国新聞」。30日早朝取材し、朝のニュースで報道してくれた「中国放送」です。

お陰で入場者は1日目約200名（8回映写）、2日目約300名（6回映写）でした。

こうして映写会は最後の上映では超満員の賑わいのなかで無事終了することができました。



藤井さんのご冥福を

ここで悲しいお知らせを。フィルムを提供してくださった藤井 一臣さんが、5月26日早朝逝去されました。

藤井さんは「このフィルムをカラスに提供供してよかった。」と喜んでおられたそうです。私たちは急遽ビデオにコメントを挿入し、故人のご冥福をお祈りすると共に、フィルムをより多くの人に見てもらおうよう努力して藤井さんのご厚意に報いたいと考えます。

入場者のアンケートから

大正一三年に乗った軽便、懐かし
く拝見。雪に映えるモノクロの
写真も斬新でした
文字で知る世界を映像で見られ
て感謝
古い地元の映像を見ることで
きる可部の人達は幸せです
可部高校卒業生として、可部町
民として、機会があれば八四歳
の母親にも見せたい
町を愛して記録を残した人、
その遺産を発掘し、町の人
に伝えてくれたことへ感謝
たい
学校教育の中で何か生かし
たい
フィルムライブラリーに寄
贈されるとよい
素晴らしい企画。昭和二〇〇四
〇年代のものも見たい
八〇歳です。文化は進んでも昔
の素直な気持ちを持ち続けたい
と思います
記録することの大切さがよくわ
かります

心安らぐ交流でした 佐伯区「屋根裏」を迎えて

5月29日佐伯区で活動が続ける、まちづくり市民グループ「屋根裏」と交流会をおこないました。

カラスとの出会いは今年1月、岡山市で開かれた「全国まちづくり屋台村」でした。屋台村1日目終了後の懇親会の中で「まちづくり合戦をやろう」との約束が成立し、可部の映写会で実現の運びとなったわけ。

当日午後可部に到着した皆さん、先着組と共に可部町の散策に出発。案内役はもちろんカラス。途中でうまい地酒をご馳走になりご機嫌の様子でした。

映写会も夕飯支度で会場も閑散としたところで、根の谷川辺へ集合して交流会の開始です。川を渡る心地よい風に吹かれながら酒を酌み交わせば雰囲気は盛り上がりますが、カラスには本来の仕事が待っています。

なごりを惜しみつつお互いの活躍を祈りながらエールを交換して交流会は終了です。先日「屋根裏」の代表から「みなさんのまちづくりに対するあたたかい心をみたように思います。」との礼状が届きました。



可部小・可部南小・亀山小で

山繭のカイコ飼ってます

カラスの会報を可部小に持参したときのこと、校長先生から「山繭のカイコを飼ってるんですが……」と言われてビックリ。「可部三丁目、川手先生の呼びかけに、可部、可部南、亀山が手を挙げたんですが、もっと増えるかも知れません。」とか。

また「餌にする檜の葉を枯れさせないように、ピンに挿しておいたらカイコが落ちてしまって、残念なことをしました。」と言われました。



グリーンの葉をたべたグリーンのカイコ、子供たちの中で自然を大切にすることへの起爆剤にでもなればいいですね。

6月～7月のスケジュール

カラスの定例会 6月 23日
7月 14日 28日

イベント

水援隊 筒賀川一斉調査 6月27日(日)
文教女子大学合同発表会 6月27日(日)
10時～15時

行きませんか

文教の合同発表会

文教の合同発表会に参加し始めてこれで3回目。だしものはやっぱり「大正時代の可部映写会と屋台」です。屋台につきものの「お酒」は不謹慎とあって自粛、代わりに珈琲でガマンしてもらいましょうか。

映写会も大文字祭ではチョー過密スケジュールだったので今度は余裕をもたせる予定。

開催日 6月27日 10時～15時

場所 安佐北区民文化センター
メンバーの皆さん、乞う応援

カラスの紹介(2)

氏名 木原 博子さん
キハラ ヒロコ

一昨年の第一回根の谷川クリーンキャンペーンに参加してカラスの活動を知り、私にできることはこれだ！とすぐ申し込みました。最近やつと時間がとれて例会に出席してみても皆さんの広範囲な活動に目をみはるばかりです。可部の住民でありながら地域のことを全く知らない私だと、あらためて感じ入りました。私も遅まきながら皆さんについて行きたいと思います。

可部カラスの会

第18号 99. 7. 15

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3
Tel(Fax)814-0162(寺本)
kabekarasu@ma8.seikyoku.ne.jp(田中)
<http://ha8.seikyoku.ne.jp/home/kabekarasu/>

寺山公園に 私達の気持ちも汲んでネ

寺山の思い出は可部で育った人には、沢山あります。水晶採り、花見には定番のご馳走で、木の小枝を尻に敷いてすべったり……。戦争が激しくなると「防空監視所とサツマイモの畠。」戦後はサクラが植えられ、呪いの釘を打った人形も。そんな寺山に対する熱い思いを友広さんに綴ってもらいます。

寺山公園へのおもい 可部カラスの会 友広 大造

平成 17 年頃に上原の寺山頂上付近に可部高校と寺山公園を完成させる計画があるそうですが、現在のところ公園の規模など具体的には何も決まっていなそうです。

私はこの寺山のすぐそば、可部町下の浜に生まれ、根の谷川と寺山は小学生、中学、高校と思い出深い、遊び場でありました。小学生の頃、毎年 4 月最初の日曜日に花見で近所の友達 7~8 人で弁当を囲み、山から見下ろす可部の町はすばらしかったことを思い出します。

この寺山は水晶がたくさん出るところで、大きいものはウチワを丸めたような大きさのもの掘りました。また、北西の谷で正月には“しめ飾り”に使うウラジロが群生し、正月前には近所の人々の分も持ち帰りました。ウラジロは上手く飛ばせば紙飛行機がわりになり、友達と山の上から誰が遠くまで飛ばすか競った思い出もあります。

この寺山に公園ができると聞いて我々のこの思いが一つでも公園の計画に反映できないものかと思えます。寺山には可部の人は昔から楽しい思い出があり、山にはお宮、墓地などがあり、歴史的にも価値のあるものがたくさんあります。このような歴史的背景をもとに、公園の中に少しでもこの町に住んでいる人が意見を出し合って、愛着のある公園にならないものかと思っています。

この寺山の名前の由来等、今日までの歴史をいろいろと勉強しようと思っています。いっしょに勉強して可部のシンボル寺山公園の計画に少しでも参画してみませんか。

まちづくり横丁をサポート 今秋まなびピア広島'99で

カラスが「まちづくり横丁」の実行委員会に参加します。これは今年 1 月岡山市で開かれた「全国まちづくり屋台村」の広島版で、地域で活動する団体が一堂に会し活動の報告と団体同士の交流を深めようというねらいで、カラスが岡山まで飛んでいった実績を評価されたのか、ボランティア総合支援センターからお声がかかったもの。

7 月 5 日の打ち合わせ会で「カァ〜」の一声でやることに決定したものの新しい分野への挑戦に不安がないとは言えません。でも持ち前の馬力を結集し、他のグループの協力を得ながらこの役割を果たすつもりです。開催場所などは次のとおり
10 月 9 日(土) 13:00~17:00
アステールプラザ 多目的スタジオ

映写会アンケートから

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| ・町の様子が大きく変わっている
のでびっくりした | ・昔のものも大切だと思った |
| 30 代以下 15 人 16 名 | 30 代以下 11 人 15 名 |
| 40~50 代 37 人 41 名 | 40~50 代 29 人 40 名 |
| 60 代以上 39 人 43 名 | 60 代以上 33 人 45 名 |
| ・暮らしぶりも文化も大きく
変わっていると思った | ・生き方や新しいまちづくりを
考えてみたい |
| 30 代以下 18 人 23 名 | 30 代以下 9 人 23 名 |
| 40~50 代 28 人 35 名 | 40~50 代 14 人 35 名 |
| 60 代以上 34 人 42 名 | 60 代以上 17 人 43 名 |

公民館やら区民センターやら

いろいろ活動していま～す

亀山公民館で諸先輩と交流

6月17日亀山公民館の「かめやま高齢者大学」に招かれました。出演者は新澤さん夫妻、三木さん、和田木さんの4名。

出演の依頼を受けたカラスはまず屋台を出してコーヒーのサービスをしよう。そして大文字祭で行なった70年前に撮影された可部の町の映画を観ていただこう。と話がきまり、前日から屋台を組み立て、当日はおいしいコーヒーをいれるため新澤さんが八千代まで水を汲みに、田中さんもコーヒーマーカー持参、コーヒをいっぱい沸かして皆さんをお待ちしました。その甲斐あってか皆さんから「おいしいネ」と言っただけでした。

映写会は皆さんとても懐かしそうで、その反応が伝わってきました。その後カラスの4人が交替で皆さんに話しかけましたが、その中で「毎月お誕生日会をしてほしい。お誕生月の人は

みんなの前で自分をPR（例えば習字、俳句、カラオケなど得意なものを披露）する。そうすると来年は何を発表しようかと目標と楽しみが持てます。



もう一つ大切なことは、お洒落です。お洒落をすると若返るといいます。今ある服でも組み合わせを考えるとようになります。この二つのことから活力が湧いてきて、地域のために公園の掃除でも……。全員が若返ると集いや作業が楽しみになり、如いては街が若返る。そんな日本一のかめやま高齢者大学になってほしいのです。」と訴えました。

カラスの行動予定

カラスの定例会	7月	28日
	8月	11日 25日
イベント等		
よがんす祭	8月21日	(土)
クリーン根の谷川	9月12日	(日)
まちづくり横丁の運営		
開催日	10月9日	(土)
打ち合わせ	7月21日	ともてつ
	7月23日	V-センター

区民センターで後輩と交流

カラスは文教女子大合同発表会にも出店しました。6月27日、場所は安佐北区民文化センター、だしものは屋台のコーヒーと70年前の可部を写したフィルムの映写。

映写回数は4回、お客さんの入りはやや少な目でしたが、お陰で文教の先生達や古い町をご存知の方とじっくり話し合える時間がとれました。

コーヒーの香りは仄かにただよって隣のお茶席まで侵入してご迷惑をかけたかも……。

仕事の都合（同業の人達と仲良くソフトボール）で出演ができなかった溝口さん、メールの中で“折角のチャンスを……”とぼやいている様子がうかがわれました。（和田木）

カラスが本にのるよ

「タノシビト12号」にカラスがのります。地域の情報誌として根強い人気を維持している雑誌タノシビト、今回は地域において地道な活動を続ける「まちづくりの市民グループ」にスポットをあてた特集号にカラスも載ることに……。

編集部の来訪を受けて友広さんと新澤さんが対談。内容はカラス語なんて読者に理解されるか？

先日編集部が再度来訪のうえ、昨年展示した写真を5～6枚持って帰られたのですが、記事の内容は本を手にしてトクとご確認を。

値段は「珈琲代の半分の二百円」の安さが売り物、定期的に購入している人はもちろん、初めて購入する人にコッソリお知らせ。公民館でも買えます。

カラスの紹介(3)

氏名 ウエキ 上森 アツコ 厚子さん

平成四年、女性指導者海外派遣団の一員として中国に行き、アルコデヒロシマの会員として活動したり、他団体との交流をする中で地域との係わりの大切さを感じていた時「可部まちづくりワークショップ」に参加しました。
可部のまちについてあまりにも知識のない自分に気づかされ、皆さんのまちづくりへの熱い思いが伝わりました。これからも楽しみながら可部のまちづくりに参加して行きたいと思えます。

可部カラスの会

第19号 99. 8. 15

可部高校の移設と同時に寺山に公園ができる。寺山に対する思いを18号で、代表の友広さんに綴ってもらいましたが、カラスも可部にすむ人達に何らかアクションを起こすよう呼びかけることが必要となってきました。そこで11日の勉強会とよがんす祭での取り組みを紹介します。

事務局 安佐北区亀山南 2-1-3

Tel(Fax)814-0162(寺本)

kabekarasu@ma8.seikyuu.ne.jp(田中)

<http://ha8.seikyuu.ne.jp/home/kabekarasu/>

寺山の勉強してよかったあ

勉強会の先生は歴史に詳しい井出本さんです。

「^{カシワ}迎接院 ^{マンダラジ}曼荼羅寺、これが寺山の正式名称です。

失礼だが、あなたたちは寺山へ上って歩いてみたことがありますか？」開口一番、先生からの先制パンチに生徒諸君も一瞬シューン。

平家物語で名を馳せた熊谷家の始祖である直実が一の谷の戦いの後、法然上人の仏弟子となり上人筆の曼荼羅を深く信心して熊谷氏の子孫に相伝させた

先生の話はいよいよ佳境に入り、下野先生執筆の「可部のまちかど」を引用しての説明に居並ぶ生徒側も身を乗り出して大きくうなづくほどでした。

内容は寺山には12の坊があったこと、その名が小字となって残されていることなどなど……。

約一時間の講義を終えて生徒の皆さん思わず大きな嘆声。「話を聞いてみると粗末に扱えんのオ。」「身の引き締まる気持ちじゃね、12の坊がどこにあったか調べてみたいねエ。」などの感想が聞かれました。

私たちの寺山に対する活動は緒に就いたばかりです。

もつともつとして町の人達にアピールできるように勉強したいといけないぞと感じた勉強会でした。



寺山の模型を前に勉強会

寺山の模型できたぞ

よがんす祭でお目見え

下の写真、寺山の模型なんです。またまたカラスが頑張りました。寺山の等高線を重ねて発泡スチロールを貼り付け、樹木を植えて出来上がりです。

この模型は今までの屋台と同様、いろんなところで皆さんのお目にかかることとなりますが、まずは8月21日の「よがんす祭」です。今回の祭で取り上げるカラスのテーマは「寺山」ということとなります。

寺山公園をみんなの問題として、長いスパンの中で論議して行きたいからです。

そこで広場で行なうゲームも「可部ふるさとクイズ」と銘打って寺山にまつわる問題を○×クイズ（または三択）として取り上げようとの魂胆で、もちろん賞品も出ます。

ゲームの進行役は野路さんが担当、提供する面白い問題は三木さんが頭をひねりながら考えています。



すばらしい映像・さびれる明神社

カラスに貴重な資料を提供される幸田光温さんからの手紙です。

先日は藤井さんのフィルム映写会ご案内いただき、すばらしい映像をみることでできました。

軽便鉄道はスチール写真としては上八木駅にとまっているものや、古市橋の上を走っている絵葉書写真など見たことがあります。ムービーでは全く初めてだけにとても惹かれるものがありました。

また船入堀の写真もこれは今まで全く見たことがなかったのでとても貴重な史料だと思いました。若干不鮮明ですけど大事に残してほしいものです。

先日あの船入堀の跡地附近を歩いてみて感じたことですが、明神社がひどくさびれてきたというか、特に拝殿の中の絵馬が5、6年前に見たところと比べて著しく傷んでいるのにおどろき淋しい思いをしました。(以下略)

みんなでやろう根の谷川清掃 後は実行のみ

まなびピア広島99

今年もやります。クリーン根の谷川。一昨年から取り組んで来たこの行事は、町の人々の好意が感じられます。町を歩いていても「今年はいつやるんかいのお。」と聞かれます。

昨年は案内が徹底せず皆さんからご意見をいただいたので、今年はチラシや回覧で周知します。

9月12日(日)、8:30~10:30
小雨なら実施、雨なら中止です。集合場所は高松橋の下(本部)と上原橋の東です。範囲は根の谷川周辺。軽い服装で手袋を用意してください。

根の谷川と共に発展したまち可部。“清流をふたたび”を合い言葉にみんなで取り組みませんか。今年も可部学区公衛協も協働します。

クリーン根の谷川に関する問い合わせ先は

友廣 大造さん 814-6728

加納 明男さん 814-7878

和田木 薫さん 814-2488です。



浄財をありがとう

次の方から活動の源をいただきました

友近 純子さん 切手

松田 光恵さん 現金

どうもありがとうございました

7月23日、まなびピア広島‘99「まちづくり横丁」の企画案の説明会がボランティアセンターで行われました。この企画カラスの会がプロモートするとあって事前に検討した資料を携えたメンバーが出席、参加団体を含め約30名の豪華な顔ぶれです。企画側から・全体のイメージ屋台と情報売買のやり方・まちづくり劇場・懇親会等について説明し大枠で承認されました。

屋台の出店は約20店舗、まちづくり劇場も4チーム揃う予定です。説明会場は終始和やか、どのチームも扱いは手慣れたもの「これはおもしろいでえ」の感じです。



「劇場を使わんと、わたらのアピールがでせん」というチームも。あとは各チームの自主的な判断により、楽しい情報交換の場になればいいですね。

がんばればプレミアム券

冷え込んだ消費に『活を入れよう』と考えられた“可部大文字プレミアム商品券”、中身は1割おトクになっており、1冊5千円で発売されています。

この商品券は、「新聞にも載りまして……」とは可部町商工会事務局長の森川さん。職員の皆さんにも活気が伺えます。

この施策は、確実に町内での消費に繋がるので、事務局長さんの「町の活性化に繋がってほしいねえ」の声に気持ちが伝わります。

“可部プレミアム会会長”仁井さんも発売開始の8月2日暑い日差しの中で道行く人達に呼びかけておられました。

え?、何でカラスがプレミアムの肩を持つんかって。「可部のまちが元気になってくれえ」という気持ちなんですよ。

カラスのスケジュール

カラスの定例会

8月25日 19:00

まちづくり横丁打ち合わせ
ボランティアセンター

9月 9日 22日

イベント等

- ・よがんす祭 8月21日(土)
- ・三入公民館ふれあいフェスタ前夜祭
8月27日(金) 19:00
三入公民館隣 第一公園
- ・クリーン根の谷川
9月12日(日) 8:30~10:30
集合場所 高松橋 上原橋
- ・まなびピア広島‘99まちづくり横丁
10月9日(土)13:00~17:30

氏名 古井 健さん

カラスの紹介(4)

昨年5月の「懐かしい可部の町」写真展に、絵はがきを提供した事が切っ掛けで入会しました。趣味は切手収集。いま時、大の男が切手収集という笑われるので「広島郵便史を研究?」している。」ということにしています。

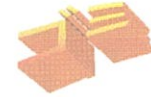
まち作りについての具体的な考えは全くなく、白紙の状態で入会したのですが、代表がよく言われる「楽しみながらまちづくりを……」を唯一の支えとして活動に参加しています。

可部の町案内に二度ほど同行しましたが、旧道がバイパスのバイパスとなって通過車輛がひっきりなしに通り、歴史のある家屋が次々と消えて行っているのを見て悲しくなりました。車を気にしないで古い街並みを散策できる日を、夢に見ています……。

可部カラスの会

第20号 99.9.15

集まったぞ 150人 集めたぞ



事務局 安佐北区亀山南 2-1-3
Tel(Fax)814-0162(寺本)
kabekarasu@ma8.seikyou.ne.jp(田中)
<http://ha8.seikyou.ne.jp/home/kabekarasu/>

「根の谷川の流れに沿って発展してきた可部の町……この母なる根の谷川が再び“可部の清流”と呼ばれるように、今年も多くの人に参加してください。」カラスの呼びかけに快く応じてくださった皆さんは約150名。高松橋と上原橋の二手に分かれて午前8時半カラスのクリーン作戦が開始されました。

年ごとに減るゴミの量

作業開始の掛声とともに参加者は一斉にゴミ回収です。今年で3回目を迎えたクリーン作戦は、町の人たちにつきり定着した感があります。ゴミの量も年々減っている感じ。これも「きれいな根の谷川を…」という人の気持ちでしょうか。

ゴミの捨て場だった柳も切られてきれいになりましたが、高校のグラウンド横には太い木の枝が沢山捨ててありました。先日の洪水で無残に倒れていた“花いっぱいゾーン”の矢



管萱もコスモスも立ち直りきれいになりました。根の谷川はもっときれいになりますよ。

目を見張る人 寺山模型の反応 時を忘れ話す人



“あんどきやドシャ降り”でした。8月21日よがんす祭の準備中、昼食をはじめた所でいきなりです。びしょびしょの美女と水も滴りきった男性での店開きでした。

カラスのテーマは『寺山を考えよう』です。前日の中国新聞でカラスの取り組みを紹介されて寺山の模型はお客さんの注目を集め、目を見張って食い入るように見つめる人時間の経過を忘れて話し込む人などなど、さまざまでした。

アトラクションの『可部ふるさとクイズ』は、参加者約200人で始まりました。最初はやさしかった問題も回を追うごとに難しくなり、頭をひねるひともありましたが、「昔可部に沢山生えていた木は松か樫か」これで決まりです20名あまりの人が賞品を手にしてニコニコ顔でした。来年もにぎやかにやりたいですネ。

クリーン根の谷川のトピックス

同じ日、下町屋でもクリーン作戦が行われました。下町屋町内会連合会(井手本信行会長)のうち、上のグループ約三五〇名の皆さんが「クリーン根の谷川」に呼応した活動を展開し、下町屋エリヤの上流において相対の成果を挙げられました。これに続いて九月二三日には下のグループが同様の活動を行う予定です。

今回のクリーン作戦に「可部学区公衆衛生推進協議会」の皆さんも加わりました。

昨年は雨天で太田川の作戦中止、今年も六月災害の直後で作戦を断念したところで浮かび上がった「クリーン根の谷川」に合流することになりました。

「皆さんと一緒に作業をすれば気持ちも変わり皆さんから元気をもらえますよ。」とは会長の新澤さんでした。

土手をスルスルと降りて大きな木の株を投げ上げた後、川に向こうまで渡ってゴミを浚えるMさん、「ここは、わしの庭みたいなんじゃけえねえ。」と、川の中をこともなげに戻ってきてこう語ってくれました。もちろんクリーン作戦の常連です。

いよいよ始まる まちづくり横丁



10月9日開催される「まちづくり横丁」の構想をご披露します。広島でまちづくりに取り組んでいるグループが一堂に集まり、グループの交流と情報を交換し合うお祭りです。

全体は2部構成になっていて、第一部は情報を売買するまちづくり横丁、第二部は情報やら意見を交流し合う交流会となっています。

横丁への参加団体は18、まちづくり劇場への参加団体は4で、参加する団体の一覧は別表のとおりですが、それぞれユニークなネーミングのグループなので情報のほしい方はぜひとも開催当日会場まで足を運んでください。

開会のセレモニーではカラスの代表友広さんの宣誓やら、可部中央マンホールのデザインでおなじみ「空想民族音楽SAYAN」の加藤修さん、小路倫さんがアトラクションに参加します。

横丁での買い物は「遊び感覚」で楽しんでください。入口で貰った模擬紙幣(まなびい)をもって屋台を回れば各グループの活動記録が所せましと並べられているので、自分が必要な情報を買ってください。情報を一番多く買って貰った屋台が優勝となります。

第二部の開始は午後6時から、滅多にこれだけのグループが集まるチャンスはないので、ワイワイ楽しく情報交換をやりましょう。

トルコへ義援金

カラスの会の有志が先日発生したトルコ大地震に対し心ばかりの義援金を送りました。カラスの会から1万円を拠出することを決め、それに有志が気持ちをプラスしてNHKへ持参しました。すでに個人で送金された方もあると思われるし、時間の余裕もな

いと考え、会員全体に呼びかけることができず、有志だけで処理しましたのでご了承ください。

カラスのスケジュール

カラスの定例会

9月 22日

10月 13日 27日

イベント等

9月24日 19:00

まちづくり横丁打ち合わせ

アステールプラザ

10月 9日 13:00~

まちづくり横丁

関係者は9:30集合

アステールプラザ

10月14日 10:00~12:00

三入公民館 高齢者学級

大正時代可部周辺の映写会

11月 3日 10:00~15:00

寺山の勉強ウオーク

上原グラウンド(弁当要)

出店ボランティア団体

中国・地域づくり交流会

屋根裏の会

HOPE

広島路上観察倶楽部

千田わっしょい祭

M-POWER

ひろしま人と樹の会

'98ひろしままちづくり未来大学

環境を考える市民サークル「宇宙船地球号の会」

あそびネット

広島県建築士会(広島県地域貢献活動センター)

アルコ・デ・ヒロシマ

可部カラスの会

H・J・V広島浄心院ボランティア

住民参加の住まいづくり協議会

もりメイト倶楽部HIROSHIMA

子ども劇場広島県センター

ボランティア総合支援センター

カラスの紹介(5)

氏名 溝口 康隆さん
みぞぐち やすたか

私がカラスの会を知ったのはインターネットでした。東京で学生をしている時にカラスの会のホームページを見つけた。HPは可部高校OBである私にとってたいへん興味深い内容でした。

可部にまちづくりを復活に行っている団体があることに感動し、その思いを電子メールに込めて伝えたところ、思いがけずそれが縁となりその後メールを介しての交流を卒業まで続けて頂きました。

この数ヶ月間活動を御一緒させて頂きより深くカラスの会を理解することができました。活動内容に共鳴できることがとても多いので、これからも可能な限りカラスの会の一員として世のため人のため可部のためにがんばってみようと思っています。